共に幸せ産みだす党・日本共産党

市議団ニュース

№1751
2015.05.03
日本共産党
根室市議団
宝林町 4-203
電話 23-6023
FAX24-1684

ぎくしゃくする日ロ関係の中で
地域の危機に直面する根室市

２０１３年１１月頃から始まったいわゆる「ウクライナ問題」によって、日本の対ロシア外交は、それまでの「良好な日ロ関係」から一変してぎくしゃくした「日ロ関係」へと激変しました。その結果、根室市においては、様々な問題でその先行きに大きな不安が急激に拡大する状況が生まれ、漁業問題、領土問題の解決に向けても全く展望の持てない事態となっています。

サケマス漁出漁の見送り風景（広報ねむろより）

２０１５年に入り日ロ関係は、いっそうの「ぎくしゃく感」を感じる様になりました。

その最初の問題が「冬のタラ漁」をめぐって起きた問題でした。２０１５年のマダラの「クオター（割り当て量）」は、昨年より多い１，１００トン以上となり関係者は大いに歓迎しての出漁でした。しかし、実際に出漁すると「オブザーバー」の問題や漁場でのロシア側の「軍艦」等による監視体制などこれまでにないロシア側の対応で日本側の漁船は早期に操業を切り上げざるを得ない状況となりました。

結果当然の様に、水産加工業等の原魚が不足する事態が発生。運輸業を始めとする関連産業でも冬場仕事のない状態が続きました。

どうなる？ロシア200カイリ内
サケマス漁

日本２００カイリ内のサケマス漁業交渉は、３月中に交渉がまとまり、４月１５日からの出漁が始まりました。その交渉が比較的順調だったことから、ロシア２００カイリ内の交渉もまず今年の分は、早々の妥結を期待していました。ところが、現在に至っても交渉日程さえも決まっておらず出漁を控えた漁業者は、もちろんのこと関係団体、経済界全体がどうなるのかという不安が「まちの中」に大きく広がっています。

一方で、「貝殻昆布交渉」は、４月２０、２１日の２日間で順調に決まり、その準備は現在着々と進められています。

肝心のロシア２００カイリ内のサケマス交渉がどう動くのか市民は固唾（かたず）を飲んで行方を只々注視しています。

長谷川市長は、４月２８日の「定例記者会見」で次のようなコメントを出しています。

「水産庁からの連絡では、本日現在、本年のロシア２００海里内漁業交渉の開始時期に関するロシア側からの連絡はない。ロシア側は、２１日に妥結した貝殻コンブ漁業交渉の後、韓国との漁業交渉に臨んでおりましたが、それも妥結したことから、次はいよいよ日本との交渉に臨む状況になっているとのことであります。」「一方、ロシア下院で審議入りしたとの報道がされたロシア水域における流し網禁止法案については、４月２４日の金曜日以降、進捗状況に関する新たな情報はないとのことであります。」という内容です。

経済の循環に重大な影響

もしも、ロシア２００カイリ内のサケマス漁業ができない事態となった場合、「春のサケマス」「夏・秋のサンマ」「冬のタラ」という年間の漁業水揚げサイクルが壊れ、地域経済が上手く回って行けない状況となります。それは、単なるロシア２００カイリ内サケマス漁業の問題だけでなく、地域全体の大問題であり、領土返還運動にも影響が予想されます。

人口減に拍車

現在（３月末）の統計で根室市の人口は約２万７、５５０人余、４月末にはさらに人口減が進むことが十分予想されています。

アメリカ一辺倒の「安倍政権」の外交姿勢。その一方でぎくしゃく感が続く、日ロ関係。プーチン大統領の訪日の日程さえ決まらない関係の中で、漁業も領土問題でも前進が期待できない状況にある根室市は、戦後最大の地域の危機に直面している状況にあります。

「バランスとれた日本外交」こそ根室の危機を打開する道だと考えます。